

衰退・消滅の危機にある静岡井川方言の現状と その再活性化

The Current State and Revitalization of Endangered
Shizuoka Ikawa Dialect



「危機言語の保存と日琉諸語のプロゾディー」合同研究発表会
谷ロジョイ（静岡理工科大学）

1

本日の内容



- ✓ Ikawa Dialect
静岡井川方言の特徴
- ✓ Endangered Language
静岡井川方言の現状
- ✓ Revitalization
再活性化プロジェクト

2

井川（いかわ）



「ゆるキャン△」コミック11巻



しゅんた herpiano
@freakyshow2006

Disney+で今話題の「ガンニバル」観てたら、ロケ地が母親の実家、静岡市葵区井川だった！この杉山玩具店で小さい頃によくプラモデルを買って買ったな…。もちろん人肉を食べる慣習は無いです（笑）

[Translate Tweet](#)



10:04 PM · Jan 12, 2023 · 16.3K Views

3

井川

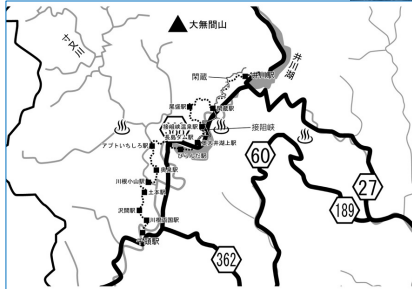
- ・静岡県北部・大井川最上流域に位置する旧安倍郡井川村
(現在の静岡市葵区井川)
- ・長く周辺地域から隔絶
- ・井川ダムの建設時（1950年代）に異なる方言を使用する集団が大量に流入



4

井川

- ・ダム工事関係の入村者が急増
- ・当時の井川の人口は2,000人→8,000人以上
- ・現在の人口は約300人
- ・交通の利便性向上



5

井川方言の特徴

(1) 無アクセント

東海東山方言の中で唯一

1960年代半ば以降に井川で出生した人は、アクセントの型を区別する「型知覚」を有する（中條, 1982b）

「尻上がり風の一本調子のイントネーション」（中條, 1982a, p.43）→ 周辺地域から「**ギラ**」と呼ばれる

6

(1) 無アクセント

キホ (b. 1938) :

分からない。私は分からない。
でも、子どもたちは分かる。
テレビの影響だか、ラジオの
影響か知らない。[中略]…ラ
ジオもないから、なんにもな
いから、井川の人だけで働っ
てるから、あの一、生活して
たから、発音っていうことは
全く分からないから…

[非公開]

7

井川方言の特徴

(2) 語頭に現れるパ行音

ハ行音で始まる語（主に動詞）の語頭にパ行音が出現する

「挟む」→ **パ**サム

「走る」→ **パ**シル

この音韻的特徴の成立には諸説あり

（古代日本語の残存、接頭辞「ひっ〜」の脱落など）

8

語頭に現れるパ行音

ヨサ (b. 1934) : ばさん
だって言うんだね。ばさん
じゃっただ、ばさんじゃった
でいたーいなんてよく言う
じゃんね。[中略] パの言葉、
つか、使わのうほうがいい
よってよく言われる。ばしれ
とか言うじゃんね。

[非公開]

9

井川方言の特徴

(3) 語彙・語法・表現

井川地域のみで使用される語彙 (片足跳び → イチモンドリ)

否定を表す「ノー」 (書かない → カカノー)

可能表現の「エール」 (起きられる → オキンエール) / 「サル」 (食べられる → クワサル/カーサル)

過去表現の「ツケ」 (涼しかった → スズシカツケ)

勧誘表現の「ズ」及び促音 (行こう → イカズ/イカッ)

禁止表現の「～ソ」 (来るな → キソ)

10

井川方言の否定表現

ウタ (b. 1937) :

もの、手紙なんか書か、書かの
うぞ。書けえのうぞって言うだ
か。

[非公開]

うん、ただ、口で言うだけなら、
いいけえがな、読みよ、読めえ
もしんのうぞって言うだよ。

11

井川方言の現状

2020～2022年度：言語調査 → 54名

(1) 個人面接調査

① 音韻調査 (アクセント・語頭のパ行音)

② 静止画の描写による 語彙調査

③ 語法・表現調査

(2) 自然談話収集

12

井川方言の現状

	～1930年代 (22名)	1940年代 (15名)	1950年代 (8名)	1960年～ (9名)
アクセント	100.00	95.00	87.50	9.38
語彙	50.05	41.85	31.94	11.11
(V)語頭P音	97.73	96.67	81.25	33.33
語法	73.01	71.25	51.56	15.97
合計	80.31	76.19	63.06	17.48

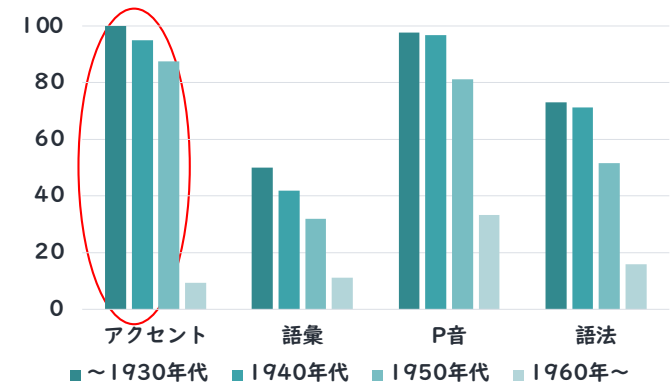
単位：％

13

井川方言の現状

(1) 衰退が急速に進んでいる。

(2) 若年層
(1980年生まれ～)においては全ての項目においての使用・理解がほぼ見られなかった



14

無アクセント

(1) 無アクセント

1950年代以前に生まれた調査協力者：アクセントの型知覚を有していない/同音異義語を回避

1960年代生まれ～：アクセントが共通語化

キホ (b.1938)：

どれも分からないですね。アメって言わないんだよね。アメンダマって言うから。アメンダマ好きだ、アメが好きだってなかなか。こういう間違いはないわね。アメ、なめるアメを、アメだけでは、井川では誰もしない。アメンダマ。アメダマって言う人も少ない。

15

語彙 (得点率)

調査対象語	～1930年	1940年代	1950年代	1960年代～
ドンビキ (ヒキガエル)	100.00	100.00	93.75	38.89
オランド (ジャガイモ)	100.00	100.00	100.00	61.11
イチモンドリ (片足跳び)	68.18	23.33	12.50	0.00
トッカゴ (トカゲ)	79.55	73.33	18.80	0.00
メメヨシ (ナメクジ)	63.64	53.33	43.75	0.00

16

語彙（得点率）

調査対象語	～1930年	1940年代	1950年代	1960年代～
ホッチョクボー（ツクシ）	11.36	3.33	6.25	0.00
カサンドー（カタツムリ）	15.91	16.67	6.25	0.00
クソヘビ（マムシ）	15.91	6.67	6.25	0.00
マツボンボ（マツカサ）	0.00	0.00	0.00	0.00

17

語彙

「オランド」：若年層も理解する

→ 意味の縮小（Ullmann, 1957他）により、「オランド」が「井川在来種のジャガイモ」という意味に限定して使われる

「ホッチョクボー（ツクシ）」「カサンドー（カタツムリ）」「クソヘビ（マムシ）」「マツボンボ（マツカサ）」：使用・理解ともに、その度合いが著しく低い

18

語頭の平行音

✓「パゲ」

2名のみ（b.1950, b.1966）「使用する」と回答

✓「パサム」

1953年までに生まれた協力者は全員が「使用する/聞いたことがある」と回答

19

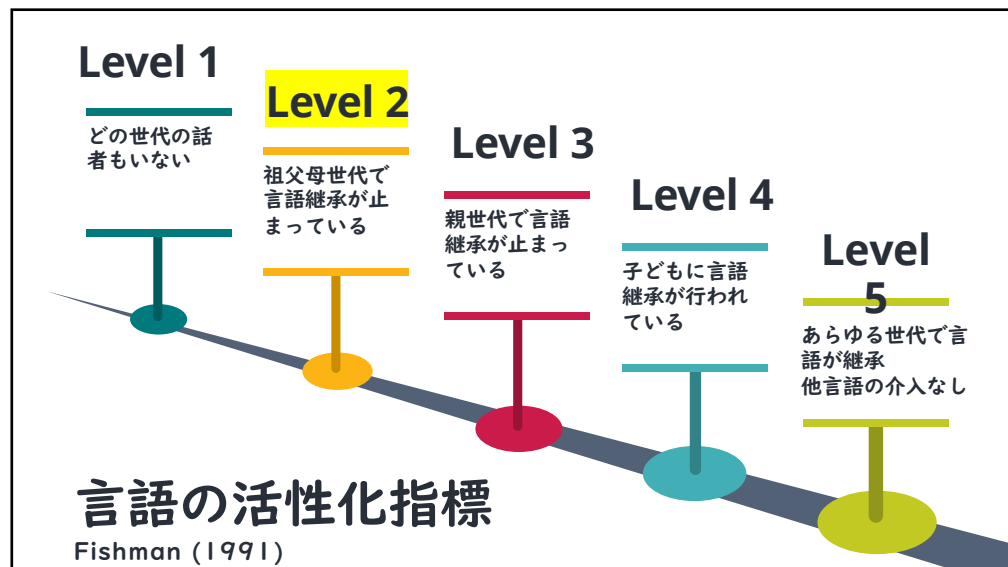
語法

動詞の過去表現「ノッゲ（飲んだ）」：使用・理解の度合いが最も低い

形容詞の過去表現「スズシカッケ（涼しかった）」：1950年代生まれまでは使用・理解が見られる

否定を表す「カカノー（書かない）」、動詞の否定過去表現「イカノッキヤー（行かなかった）」：使用・理解の度合いが高い

20



21

言語の活性化指標

指標2
母方言話者数：200名を下回る
→ 全ての話者は (1) 静岡中部方言の使用が可能
(2) 共通語の理解が可能

指標3
コミュニティにおける井川方言話者人口の割合：5割程度
高齢化率 65% ー中学生3名，小学生1名，未就園児3名

22

言語の活性化指標

指標4 言語使用領域：Level 1
井川方言を母方言とする者同士の会話

指標5 新たなメディアへの適応：Level 0
どのメディアでも使用されない

指標6 識字教育：Level 2
方言集は存在するが，学校教育には取り入れられていない

23

言語の活性化指標

指標7 行政の支援：Level 3
実質的な支援なく，公的な場でも使用されない

指標8 井川方言に対するコミュニティ構成員の態度：Level 1
言語継承に積極的な者はわずかで，多数は無関心

指標9 ドキュメンテーション：Level 3
音声データが存在し，文法や語彙の記録が存在する

24

6段階の危険度

安全：Safe
言語は全世代で話されており、世代間の伝達も中断されていない

脆弱：Vulnerable
ほとんどの子どもはその言語を話すが、家庭など特定の領域に限定されている場合がある

危険：Definitely Endangered
家庭において子どもたちはもはや母語として学んでいない

重大な危険：Severely Endangered
言語は祖父母かそれ以前の世代が話すのみで、親世代はそれを理解しているかもしれないが子どもたちにその言語では話しかけず、また自分たちもその言語で会話していない

極めて深刻：Critically Endangered
言語の最年少話者は祖父母かそれ以前の世代で、部分的かつまれにしか話されていない

消滅：Extinct
話者は残っていない。



25

井川方言継承・保存への道

若い世代に話者との文化的相互行為を促す

インフォーマント（話者）から井川方言を記録・保存

コミュニティ構成員によって井川方言の社会化を目指す

井川方言を親世代・子世代に伝える

26

井川方言継承・保存への道

01 インフォーマント（話者）から井川方言を記録・保存アーカイブ化し、地域コミュニティが利用できるような形で公開

02 井川方言に親しめるような冊子を、地域住民と協働して作成井川方言に関する基本的な知識が得られるようなワークショップを実施

27

井川方言継承・保存への道

シンポジウムの開催により、地域住民と共に井川方言の衰退について考える機会を設ける

2023年度～
井川ことばお茶会（月1回）



28

参考文献

Fishman, A. (1991). *Reversing Language Shift*, Multilingual Matters

Ullmann, S. (1957). *The Principles of Semantics*, 2nd edition, Glasgow: Jackson & Oxford: Blackwell.

中條修 (1982a) 『静岡方言の研究』吉見書店。

中條修 (1982b) 「無アクセント地域における青少年層のアクセントの動向—静岡市井川方言の場合」『静岡大学教育学部研究報告人文・社会科学篇』静岡大学教育学部編, 1-15.

本研究は、日本言語学会「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト助成」を受けています